

## 第2回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会 議事概要

### 【導入（委員長）】

---

今日は、草津市ってどんな部署があってどんな活動しているのかっていう話を、一度図上に落としてみて、どうなっているんだという話をしてみようと思います。自分と関わる草津市とか、自分と関わる他の人たちとかとの関係を見ていき、みんなで草津市の参加と協働の相関図を作っていこうという話です。

草津市では、協働のまちづくり・市民参加を推進するために市役所の中のいろいろな部署が協働のまちづくりというのをテーマにしています。また草津市の特徴として、中間支援組織のコミュニティ事業団とか社会福祉協議会があります。色んな制度もあります。

市民の方だって様々なテーマの市民グループがたくさんあり、地域組織を担ってもらっているまちづくり協議会もあります。

ただそれぞれがバラバラでどう関連しているのかわからないし、どんなことをやっているのかわらなかつたりする。或いはやっていることは知っているけども、もう少しここここの部署をくっつけてくれたら私たちは便利になるのになって話は、現場でやっていることもあると思います。

そんな話を図上でちょっと話し合ってみようというのが今日のテーマです。

<ワークショップの方法（1時間程度）>

#### ○準備物

- ・草津市の行政の中でも協働に関わりそうな部署のカード
- ・市民側のカード（ボランティア団体、学区社協、町内会、消防団等）
- ・協働に関わりそうな審議会のカード

#### ○ワークの方法

- ・3班に分かれて行う。
- ・カードを使いながら知っている範囲でそれぞれの関係性を模造紙に書く
- ・使いたいカードがない場合は追加してもよい
- ・良い取組や良いつながりは黄色のポストイットに書いて付近に貼る
- ・要望とか疑問は緑色のポストイットに書いて付近に貼る
- ・参加者それぞれの視点を共有しながら関係性の現状を探る
- ・行政グループのみ、行政の視点でどう感じているかの課題を出す
- ・最後にどのような意見が出たのかグループごとに発表する

### 【発表（A班）】

---

うちのグループは、全体を見ると市民活動があって、まち協と渋川学区のボランティアグループの話、あと社協の話もありました。

実はこれらが結構分かれてしまっているというのがまず浮かんできました。

話した順々にいくと、例えばやんちゃ寺で子ども食堂を始めていったときに、どこに相談していいかわからなくて、それは助成金とかそういう話ではなくて、運営の仕方とかをサポートしてもらいたかったんだけど、そういう部署がない。

一方で、渋川学区の渋やる会の話ですが、子どもたちを中心にやっていて、これはいわゆる市

民活動型、つまり元々の町内会の人ではなくて、こういうことやりたい人って手を挙げて入ってくる人たちですから、地域の中で市民活動的な動きが出てきていることはとても良いことなんですけども、ここで一番問題になったのは防災の話。まち協との繋がりはあったが、危機管理課との直接のやり取りはなかったようです。

また、避難所開設は草津市の場合は市の仕事になっていて、地域とのつながりになっていないため、防災と地域がうまく連携できていない。また、災害ボランティアセンターが社協の任務になっているわけだけれども、これが繋がっていない。

要するに防災の部局とのつながりも社協さんとのつながりも中々見えない。

大きく言うとその3つ（市民活動・まち協・社協）が頑張っているんだけどバラバラに動いていて、まち協の中に市民活動的な動きがある学区も出てきて、市民活動とまち協は段々つながってきているけども、社協とのつながりは中々見えてこないという話でした。

以上です。

### 【発表（B班）】

---

私たちのグループは、真ん中にあるのが協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会とそれに関わる市の部局、それに健康福祉、子どもという感じで整理していただいて、そして社会福祉協議会、社会教育委員という感じになっています。

それに関わり合う感じで、まち協、それに関わる色んなところができました。

まずキーワードとして出てきたのは「可視化」です。

例えば子どもに関してもこれだけ関連していそうな部署がたくさんあると、どこが何してるかわからない、相談に行きにくいというのがあります。

そういうときに、行政は社協に相談してみてくださいと言うことがある。

社協と言えば、地域や市の中の色んな市民の活動とつながっていて、実際に地域でやっていく重要なところなわけです。

地域から見たときに、社協と民生委員はそれぞれ地域全体と個々の問題に対応するという役割を担っています。しかしながら、そういった情報が必要な人に届いていない場合、社協に相談が集まり、一手に負担しきれないという問題が生じます。

そうすると地域の中で課題に対する気づきとか初期対応など、地域で解決できるところは解決していったら、深刻になってきたらさらにつながっていくというやり方もあると思いました。

一方で地域について考えてみると、担い手の話など色々大変です。単に市民の関心が足りないということだけではなくて、コロナ禍の中で失われてしまったものの再起動の大変さというものを感しました。

かつてやっていたことでも再起動することの大変さと、それらを踏まえてやることを見直しする、続けることや軽くすることを話し合う場が必要ではないか、これは問題の共有ということになるんだと思います。

そして最後に、読書ボランティアを通じて地域と繋がる取っ掛かりが生まれつつあるという話を聞きました。でも、様々なところで各々がボランティアを募集しているため、全体像もそれぞれのつながりも見えにくいように感じています。

市や社協やコミュニティ事業団で、活動や対象がそれぞれ重なっているところ、選択肢がある

ことはいいことなんだけれども、重なって何かつながっていることが、よりいい効果があることもあって、一つにまとめる必要はないけれども、どこにどういうボランティアやどういう関わりができる人がいるのかを可視化することが大事なんじゃないかという話になりました。

#### 【発表（C班：行政グループ）】

---

我々のチームは5人のうち4人が市の職員ということで、市側から見た課題等を中心に話しました。

市にはいろんな部署があって、市民や地域から見たらいろんな所属との関わりがありますが、市の中で所属間・組織間での連携や協力ができているか振り返ると、あまりできていない。

その背景としては、縦割りというセクショナリズム、風通しが良くない、自分の業務外のことに對して、あまり関心がないというような職員の意識のところもあると思います。

象徴的なことでは、総合計画の体系図の一番上のところに、将来ビジョン、まちの姿のゴールとして、健幸創造都市という言葉がありまして、健幸都市づくりっていうのを草津市の総合行政として謳っています。

総合行政ということで、全ての部署が我が事として同じゴールに向かって頑張っていこうと掲げているにもかかわらず、なかなか連携がとれません。

健幸都市づくりをみんなでやろうと言うと、それは健康福祉部、健康福祉政策課の仕事だと言って、やってもやらされ感がすごくて、総合行政として本当にうまくいっていないところがあるので、草津市として横の連携というのが非常に弱いと感じています。

例えば福祉の部門でいうと、個別ケースに対応するときに、サービスごとの連携があるので関係部署と連携しますが、ソーシャルワークといって地域に入って横のつながりを作る、関係を構築していくとなると苦手意識を持っている職員が非常に多いと感じています。

地域の中で色んな関係者がそこに集って、地域にどういう課題があってみんなで何ができるかみたいなことを話し合う場を設けても、あまりうまくいかないことが多い。

それは、どのように関わっていくとうまく関係を作れるかっていうことを職員が共通認識できていないので、ちょっとこの辺が課題かなというふうに感じています。

そして市全体として何で協働がうまくいっていないかという、最も根幹なところで言うと、協働っていうとやっぱり面倒くさいという意識を持っているのではないかと。

手続き的にアンケートをとるとか、こういう審議会をして公募委員の方を入れて市民の意見を聞き取る、あるいはパブリックコメントをするという手続きをすることが協働だと理解しているので、やっぱり協働って面倒くさい、やればやるほど手がかかるものだという認識をひっくり返さなきゃいけないと考えています。そういう意味では協働をすることのメリットみたいなところを、職員の方が認識をして、協働は自分たちが楽になるんだよ、より施策の質が高まるんだよといった、そういうプラス面をうまく見せてあげて認識したら、ちょっとは協働が進むのではないかと考えています。

ただ、やっぱり横のつながりという意味では、やっぱり色んな部署の人が話し合うことで持てるようになるかなと、ただ会議とかをやってもそれぞれのセクショナリズムで自分たちのことを主張して壁ができてしまいますが、そういったことを全て取っ払って、フラットな話し合いの場、一見すると無駄なように見えますが、そういう話し合いの場を重ねることによって、連携といっ

たことにつながっていくのではないかなと思っています。

総じて言うと、協働がうまくいかないというのは、住民とか地域というよりは、市という組織、職員意識が原因でうまくいっていないということが多分にあるというのが話し合った中で見えてきたと思います。